

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	講談社刊行、陸軍雑誌『若桜』：解題及び内容総覧（総目次）
Sub Title	
Author	五島, 慶一(Goto, Keiichi)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2007
Jtitle	三田國文 No.45 (2007. 9) ,p.93- 111
JaLC DOI	10.14991/002.20070900-0093
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20070900-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

講談社刊行、陸軍雑誌『若桜』

——改題及び内容総覧（総目次）——

五島 慶一

○ 初めに——創刊までの経緯

『若桜』は昭和十九（一九四四）年より同二十（一九四五）年にかけての短期間、大日本雄弁会講談社（以下、講談社と略称）より発行された雑誌である。その性質は後の目次・内容総覧より一目瞭然と思われるので、ここではその成立に至るまでの経緯を確認しておくこととしたい。

昭和十九年、引き続き出版業界整理——雑誌統廃合のうねりの中で、講談社は自社の発行していた雑誌「コードモエバナシ」「幼年倶楽部」の二誌を三月号で打ち切り、休刊とする。だが、次の引用から明らかのように、これら両誌の枠をそのまま襲う形で海軍省後援の雑誌「海軍」、陸軍省後援の同じく『若桜』が同年五月号より創刊されるわけで、戦時統制下の雑誌の発行部数・総頁数の制限・縮小や紙質の低下といった絶対的な要素を別にすれば、他の出版社に比べて講談社の被害は極めて小さかった。あるいはそうした縮小を強いられる市場の中で優位にあり続けることが認められたという意味では、寧ろ相対的には大きな〈利〉を得ていた（今日所謂「勝ち組」の位置にあ

った）とも言えるだろう。

小玉邦雄（元本社取締役）談

軍部から話があつて「幼年倶楽部」と「コードモエバナシ」を休刊し「若桜」と「海軍」が創刊されました。

これは幼年雑誌は戦争協力にならない。もう少し大きな少年に向かつて、飛行兵とか戦車兵に仕向けるようにしたいということであつた。それに役立つような雑誌にしようというわけで、このことが行なわれたのです。

それから陸、海軍が競つて、自分のほうの部数を余計出せというのですが、これは前の「コードモエバナシ」や「幼年倶楽部」の出しておつた部数、それが基準なので、それ以上は出せないのだが「俺のほうをもつと余計出せ」と、陸、海軍の競争が始まつて、年中その間にはさまつて苦しんだものです。

そうした同社の同時代的優位を支えていたのは、自ら軍の方に出向き、その意向を伺いそれに従つて動く、という態度を採

り続けたことだろう。直前に収録されているもう一つの回想談より引く。

竹中保一談

昭和十八年の十一月五日、丸ノ内茶寮で「少年俱樂部」が、海軍省報道部の高戸大尉に話を聞きました。その際も同席していたのですが、話のあとで、大尉から雑誌の用紙について、官給紙いゆる會が相当あるので、これを講談社に回し、海軍の雑誌を出してみたいが、どうだろうという話がありました。

十二月十日になって、再び丸の内茶寮で、高戸大尉と加藤謙一氏と私が見えたとき、前述の會用紙の話が出ましたので、本社は、海軍の希望する雑誌を出したいものだと、申し出たわけです。

これより前、一方陸軍のほうからも、陸軍関係の雑誌を出したいからという話もあったのですが、陸軍のほうが決定的に前に、海軍のほうが決まったわけでした。ついで、陸軍のほうも話が進み、相前後して、決定したような順序です。海軍のほうは、高戸大尉ほか情報局の古橋海軍中佐も推進に当たりました。

雑誌名は初め海軍のほうが「若桜」が有望でしたが、陸軍のほうは、「若桜」と決まったので、(略)

十二月十日に話が始まり、急遽編集案をまとめ、翌十九年一月五日に大綱が決定しました。「海軍」の編集長は今までの関係上私が、また陸軍の「若桜」も同じ募兵

の少年雑誌として「少年俱樂部」編集長の岩本氏がそれぞれ指名され、四月二十九日天長節の日に創刊号が双方発売されました。

このときの高戸（顕隆・海軍主計大尉）の話とは、「少年俱樂部」に翌昭和十九年一月号から八月号まで連載された「敵艦隊撃滅」（花島勝一画）であろう。

なお、引用では主に海軍に焦点が当てられているが、話が出たという正にその年（昭和十八（一九四三）年）、講談社は三月十日付で、陸軍省報道部長・矢萩那華雄から「富士」「少年俱樂部」「少女俱樂部」に対して感謝状を贈られている。又、昭和十三（一九三八）年より同十七（一九四二）年にかけて陸軍省情報部員・情報局情報官などの要職にあつて、戦後の回想では言論統制の中心的悪役の如く扱われる鈴木庫三ですら、昭和十五（一九四〇）年六月の時点で講談社を主婦之友社・文藝春秋社と共に「平素の軍に協力して居る雑誌社」と見做していたことがその日記から判る。実際、この時期講談社は鈴木に雑誌への執筆を依頼したり、彼（情報部）に取材した記事を掲載する、あるいはその著書刊行を請け負うなど、係わり合いを強めていた。更に遡って昭和十四（一九三九）年四月には、陸軍恤兵部の委嘱により同部で発行していた雑誌「恤兵」の編集を引き受け、「陣中俱樂部」として改題創刊したりもしている（昭和十九（一九四四）年十一月終刊）。

こうした以前からの陸軍と講談社の関係から、「海軍」と共に「若桜」刊行を同社が引き受けたのは寧ろ当然の流れであつ

た。尚、ここにある通り、「若桜」の(初代)編輯長に就いた岩本新作は昭和十六年五月より昭和十九年八月まで「少年俱樂部」の編輯長(奥付では編輯兼発行人⁶⁾)を務めていた。その間、同誌の昭和十九年三月号は「帝國陸軍号」と銘打った一冊丸々の特集であり、特にその中に誌面の約一割を占める「決戦下」に勇む陸軍生徒「陸軍の軍人になる道すぢ」⁷⁾は、後の「若桜」中の記事「決戦下諸君の進む道はこれだ(陸軍諸学校案内)」(創刊号 三三〜三五頁)「陸軍への道——陸軍幼年学校、少年兵諸学校、特別幹部候補生の実際と志願案内——」(昭和二十年三月号 五九〜六九頁)などとほぼ同じ陸軍諸学校の詳細な案内であるなど、同社の編輯レヴェルでも「若桜」への道は既にこの段階で整備されていたと見てよい(注12も参照。因みに「少年俱樂部」の翌々五月号は「帝國海軍号」である)。更に「少年俱樂部」同年九月号に「陸軍少年兵の募集」・「少年飛行兵の歌「若き翼」」(梅木三郎)が掲載されるなど、敗戦の昭和二十年に向けて「海軍」を含めたこれらの雑誌の内容はしばしば重なりあってくる(「少年俱樂部」としては、一応「若桜」「海軍」を自らの「兄さん雑誌」と位置づけるかのよう⁸⁾だ)。

「若桜」

版型 A5版
定価(全号) 五十銭
発行人 高木義賢

編輯人 岩本新作(第二卷三号まで) 木村謙一(第二卷四号)

木村健¹⁰⁾(同五号)

印刷人 横田秀治(第一卷二号まで) 安達信雄(同三号から)

発行所 大日本雄弁会講談社

印刷所 大日本印刷株式会社

配給元 日本出版配給株式会社(第一卷八号まで) 日本出版配

給株式会社(第二卷一号から)

※ 毎月一回一日発行(表記の前月二十五日印刷納本、二十八日頃発売(次号予告に拠る))

○ 表紙

原則、各種少年兵の絵である(各号目次を参照)が、第一卷八号(昭和十九年十二月号)は「勝ち抜け大東亜戦号」と銘打たれ、米爆撃機(?)を日本の戦闘機が攻撃しているという図柄、第二卷二号(昭和二十年二月号)は、米軍艦(国旗が見える)を(体当たり?)攻撃する日本の戦闘機の図、同四号(同四月号)もやはり敵戦闘機を撃墜する日本の戦闘機の図となっている。又、第二卷五号(同五・六月合併号)は単独の表紙がなく、本体(雑誌の前身)と同じ紙で一頁目の上部四分の三ほどに戦車の絵及び「若桜 五・六月合併号」と記載され、その下残り約四分の一は目次となっている。

尚、一巻一号から四号、六号には、タイトルよりやや小字で、「青少年の陸軍雑誌」と副えられている。同じ文句は、背表紙のタイトル上部にもあり、こちらは全号(表紙を欠く最終

号は除く)そのパターンである。

○ 裏表紙

ほぼ全面が広告欄となっている。以下に各号に掲載された広告主と紙面パターンを示す。

第一巻一号 三和銀行(全面。「みたまわれこの大みいくさに

勝ちぬかん」の標語入り。以下「A」と表記)

同二号 (上下分割して半面ずつ。以下の号もこのパターン)

A及び、西宮航空園(以下「B」)

同三号 住友銀行(「送れ飛行機 貯め抜け戦費」の標語入り。以下「C」)及び、B

同四号 A及び、仁丹(以下「D」)

同五号 C・B

同六号 A・D

同七号 C・B

同八号 A・D

第二巻一号 C・D

同二号 A・D

同三号 C・D

同四号 A・D

○ 目次と内容細目

以下、各号の目次を基本としてタイトル(角書のあるものは

それも併せて)と著者名を拾う。原則掲載ページ順に並べ替え、「(」内をこちらで補った。内容については注も参照されたい。

① 創刊号(昭和十九年五月号) 総九十六頁

表紙 「陸の鳳雛」⁽¹⁾ 松野一夫画

1 「若桜」の創刊を祝す 陸軍省兵務局長・陸軍少将 那須義雄

(2) 目次

3 御馬上の大元帥陛下⁽¹²⁾

4 決戦下に励む星の生徒⁽¹³⁾

7 口絵「軍旗」⁽¹⁴⁾ 鈴木栄二郎画

8 軍人勅諭を奉唱せよ⁽¹⁵⁾

9 愛國物語詩 北条時宗⁽¹⁶⁾ 西條八十

12 撃ちくだけ敵の上陸作戦⁽¹⁷⁾ 陸軍大佐 此木友之

17 軍事訓練の頁 まづ不動の姿勢 (絵・玉村吉典)

18 奮起せよ、神州男児

22 少年飛行兵物語 大空に捧げん⁽¹⁸⁾ 陸軍省報道部長・陸軍大佐 松村秀逸

28 画、以下同じ) 大林清 (林唯一

33 募兵問答、読者だより募集⁽¹⁹⁾

36 決戦下諸君の進む道はこれだ(陸軍諸学校案内)

37 日本人の心と桜の花 陸軍少尉 斎藤瀾 (山口将

吉郎画)

38 〵 42 われら軍旗と共に進まん 陸軍少将 桜井忠温
 (小川真吉画)
 43 陸軍諸学校志願者の心得
 44 〵 45 連載 軍隊ぢいさん⁽²⁰⁾ 松下井知夫 (「若桜道場の
 巻」)
 46 〵 55 歴史小説 神風 角田喜久雄 (「斎藤五百枝画、以
 下同じ」)
 55 六月号お知らせ (見開きの左頁約三分の二。右側は小
 説)
 56 〵 57 (「兵器 小銃の話 (陸軍兵技大尉 清水憲三)
 知識」) ドイツの青少年は空襲下にどんな働をしてゐるか⁽²¹⁾
 58 〵 61 「笑話」⁽²²⁾ 牛場信彦
 61 感激事実物語 鉄脚の若鷲⁽²³⁾ 赤川武助
 62 〵 74 さあ考へてごらんなさい
 75 武士の子のしつけ (菖蒲の節句) 浅野晃
 76 〵 77 元帥大山巖 望月茂⁽²⁴⁾
 78 〵 79 漫画 こんな兵器ができたら⁽²⁵⁾
 80 〵 81 少年飛行兵に兄さんができた⁽²⁶⁾ 橋爪健
 82 〵 85 皇軍インドに進撃⁽²⁸⁾
 85 少年葉隠れ武士⁽²⁹⁾ 大隈三好
 86 〵 96 創刊の御挨拶⁽³⁰⁾
 95 (「96 下段三分の一に奥付」)

② 第一卷第二号 (同六月号) 総八十頁

表紙 「少年戦車兵」⁽³¹⁾ 鬼頭鍋三郎
 (I) 目次 目次の絵・梁川剛一画)
 2 〵 4 画集 芳山楠帯刀の歌 元田永孚⁽³²⁾
 5 〵 8 写真画報 雛鷲はそだつ
 9 軍事訓練の頁 敬礼 (無署名)
 10 〵 11 錦旗の下に誓ふ若武者 高田元三郎謹記
 12 〵 19 歴史小説 神風 角田喜久雄
 19 皇国の空を守れ⁽³⁵⁾
 20 〵 21 兵器知識 白兵戦と手榴弾 陸軍大尉 花室輝雄
 22 〵 23 この仇を討つのは諸君だ⁽³⁶⁾
 24 〵 25 少年戦車兵から故郷へのお便り⁽³⁷⁾
 24 〵 25 学校訓練だより⁽³⁸⁾
 26 〵 28 若きビルマの熱血 (現地報告)⁽³⁹⁾
 (29 〵 31 卒業の所感 ビルマの英国人 大本宮陸軍報道部陸軍少佐 後藤四郎
 ビルマ陸軍士官学校 キンゾウ候補生)⁽⁴⁰⁾
 32 〵 33 連載漫画 軍隊ぢいさん 松下井知夫 (「開墾の
 巻」)
 34 〵 41 少年飛行兵物語 大空に捧げん 大林清
 42 〵 43 建軍の父 大村益次郎 望月茂
 44 〵 48 軍事科学 新しい電波兵器の話⁽⁴¹⁾ 工学博士 篠原登
 48 〵 49 陸軍少年兵志願の手引⁽⁴²⁾
 50 〵 53 青葉城下にきたへる陸の鳳雛⁽⁴³⁾ 本誌特派 秋永芳郎
 54 〵 63 不屈の荒鷲魂 死して船団をまもる 赤川武助 (小
 松崎茂画)

63〔囲み〕 七月号のお知らせ

64 漫画 突撃鉄球 〔大野鯛三〕

65 募兵問答 陸軍省兵備課

66 愛国熱血 陸軍省兵備課

67 冒険小説 ハウモツ諸島の東

78 考へてごらんなさい

79 読者だより

〔下段三分の一に奥付〕

③ 第一巻第三号(同七月号) 総八十頁

表紙 「砲隊鏡と少年砲兵」 松野一夫

(1) 目次)

2 詩画集 吉田松陰先生 蔵原伸二郎 〔斎藤五百枝

画〕

5 写真画報 陸軍少年高射兵

9 速歩行進

10 軍国の青少年と語る 陸軍大将男爵 荒木貞夫

16 うたはう航空整備兵の歌

18 歴史小説 神風 角田喜久雄

26 兵器知識 軽機関銃の話 陸軍兵技中尉 楠確

28 戦地の兵隊さんへ真心を)

29 漫画突撃隊 〔小川哲夫画〕

30 航空決戦記 ああ大陸の隼 赤川武助

39 兵隊ぢいさん 松下井知夫 〔軍事郵便の巻〕

41

42 山縣有朋(陸軍名将物語) 望月茂

43 笑話

44 陸軍諸学校志願問答

45 読者だより

46 軍事科学 水平爆撃と急降下爆撃

50 陸軍航空本部・陸軍中佐 足原武一

〔50 囲み 若桜八月号のお知らせ〕

51 みんなやらう航空体操 〔原一司画〕

54 少年武士道物語 強情忠七 田岡典夫

〔59 欄外 「若桜」を大いに活用してください。 若桜編集

局〕

60 読者諸君へ

61 考へてごらんなさい

62 航空小説 大空に捧げん 大林清

70 南海の血闘 敵陣潜入三十五日 東猛夫 〔北宏二

画〕

76 武士の子のしつけ(鍛錬) 浅野晃 〔黒崎義介

78 飛行兵になる道

79 陸軍少年兵を志願する方へ

〔下段三分の一に奥付〕

80

④ 第一巻第四号(同八月号) 総八十頁

表紙 「陸軍特幹船舶兵」 斎藤五百枝画

1	詩画集 武人の歌 ⁽⁶²⁾	79	編輯局だより ⁽⁷²⁾
5	勇ましい電波の戦士・陸軍少年通信兵 ⁽⁶³⁾	80	軍少年兵を志願する方へ
(9)	目次		〔下段三分の一に奥付〕
10	「超空の要塞」撃墜戦記 橋爪健 〔小松崎茂画〕	⑤	第一巻第五号(同九月号)・「航空決戦号」
20	陸軍諸学校志願問答 陸軍省兵備課		総八十頁
21	笑話 (頁欄外 二本)		
22	軍国の青少年と語る 陸軍大将男爵 荒木貞夫	表紙	「少年飛行兵」 松野一夫
28	陸軍少年戦車兵学校の校歌 〔詞と楽譜〕	(1)	目次
30	歴史小説 神風 角田喜久雄	2	目次の絵 小松崎茂
36	読者だより (二段組下段)	2	詩画集 桶狭間の突撃 蔵原伸二郎 〔山口将吉郎画〕
37	漫画〔佐次たかし「思ひきつてみたら」	5	写真画報 陸軍の最高陣容 ⁽⁷⁵⁾
38	特幹入隊第一報 若桜特派記者	9	大決戦に馳せ参ずる者 ⁽⁷⁶⁾
41	〔囲み〕 九月号のお知らせ	12	みんなで歌はう「若き翼」 ⁽⁷⁷⁾
44	軍事科学 新兵器「V一号」 小松昌夫	14	航空決戦記 必殺の闘魂——一機一艦をほふる高田戦
50	川上操六(陸軍名将物語) ⁽⁶⁷⁾ 望月茂	25	闘機隊の偉勲上聞に達す——
52	漫画 兵隊ぢいさん 松下一知夫 〔ポンプの巻〕	30	連載漫画「兵隊ぢいさん」 松下井知夫 〔若桜
54	航空小説 大空に捧げん 大林清	32	兄弟の巻〕
62	兵器知識 擲弾筒の話 陸軍兵技中尉 楠確	40	航空小説 大空に捧げん 大林清
64	少年砲兵から故郷への便り ⁽⁶⁸⁾	46	決戦内閣の総理大臣 小磯国昭大将 ⁽⁸⁰⁾ 河上哲
66	時局問答 勝利断じて我にあり ⁽⁷⁰⁾ 覆面將軍	55	漫画「鉄道建設用戦車」 ⁽⁸¹⁾
72	学問の修業(武士の子のしつけ) 浅野晃 〔玉村	56	第二期特幹へ総進軍 ⁽⁸²⁾ 陸軍諸生徒採用委員
74	吉典画)		
77	陸軍幼年学校の入学試験問題 ⁽⁷¹⁾		

〔57下段に笑話（投稿？）〕

58〜59 少年整備兵の手紙⁽⁸³⁾

58〜59 娯楽室⁽⁸⁴⁾

60〜65 軍国の青少年と語る⁽⁸⁵⁾

66〜69 少年飛行兵志願問答 陸軍省兵備課 陸軍大将〔男爵〕 荒木貞夫

70〜71 陸軍名將物語 乃木希典 望月茂 〔伊藤幾久蔵画〕

72〜79 歴史小説 神風 角田喜久雄

〔79下段「若校」十月号のお知らせ〕

80 編輯局だより

〔下段三分の一に奥付〕

⑥ 第一巻第六号（同十月号） 総八十頁

表紙 「射撃訓練」⁽⁸⁶⁾ 鈴木誠

1〜4 征野に歌ふ⁽⁸⁷⁾ 解説 逗子八郎 絵 向井潤吉

5〜8 写真画報 兵器に魂をうちこむ陸軍少年技術兵⁽⁸⁸⁾

〔9 目次〕

10〜15 十死十生——今なほガ島に戦ひつづける勇士を思う

て、その闘魂、その責任感、その戦友愛——

陸軍少将 桜井忠温 〔飯塚玲児画〕

16〜23 少年武士道物語 風雲菊池城 小山寛二 〔山口将吉郎画〕

23〔囲み〕 恩賜記念賞に輝く「仰角測定器」⁽⁸⁹⁾

24〜25〔漫画〕 フクちゃん少年飛行兵訪問 横山隆一

26〜30 軍事科学 空挺部隊

陸軍航空本部・陸軍中尉 原文哉 〔小松崎茂画〕

〔31 科学戦に勝つために〕

32〜35 不滅の闘魂ここにあり 「特幹生」の手記⁽⁹¹⁾

36〜43 航空小説 大空に捧げん 大林清

44〜47 兵器知識 戦車地雷の話 陸軍技術少佐 高木治郎

47⁽⁹²⁾〔漫画〕 移動基地 山本一郎

〔47囲み 若校十一月号のお知らせ〕

48〜49 忠節（武士の子） 浅野晃 〔玉村吉典画〕

〔49頁余白 陸軍少年兵志願の締切日せまる〕

50〜60 航空血戦記 神鷲散華⁽⁹³⁾ 赤川武助 〔北宏二画〕

〔60下三分の一「陸軍少年兵諸学校」の紹介〕

61 特幹の歌 〔清水かつら作詞・佐々木俊一作曲〕

62〜63〔漫画〕 兵隊ちいさん 〔空襲の巻〕 松下井知夫

64〜66 突撃の陣頭に立て⁽⁹⁴⁾ 陸軍中佐 田中義男

66⁽⁹⁵⁾〜69 陸軍少年兵志願問答 陸軍諸生徒採用委員

70〜71 少年兵になるにはこれだけの体が必要だ⁽⁹⁶⁾

72〜79 歴史小説 神風 角田喜久雄

〔79囲み 「算術遊戯」〔パズル〕〕

80 編輯局だより

〔下段三分の一に奥付〕

⑦ 第一巻第七号（同十一月号） 総八十頁

表紙 「航空通信兵」 鈴木誠画

1〜4 御製に拝する大御心⁽⁹⁷⁾ 房内幸成
 5〜8 写真口絵 闘魂敵陣営を震撼す⁽⁹⁸⁾
 (9) 目次
 10〜17 われ神兵の姿に泣く⁽⁹⁹⁾ 報道班員 棟田博
 (17 囲み 「若桜健児の奮闘を祈る」 若桜編輯局)
 18〜25 航空小説 大空に捧げん 大林清
 26〜32 「特幹」へ怒濤の進撃⁽¹⁰⁰⁾ 橋爪健
 32〜33 空中戦競技 長沢義男
 34〜41 感激事実物語 戦友愛勝てり⁽¹⁰¹⁾ 宮本旅人
 41 故郷の母より幼年学校のわが子へ⁽¹⁰²⁾
 42〜43 武士の子のしつけ 敬神 浅野晃 (玉村吉典画)
 44〜45 連載漫画 兵隊ちいさん (「立体作戦の巻」)
 松下井知夫
 46〜48 兵器知識 火焰発射機の話
 陸軍技術大尉 鈴木武治
 48〜49 武功いづれが一番 笹本寅 (伊藤幾久造画)
 48〜49 やつてごらん⁽¹⁰³⁾
 守りは固し北方第一線⁽¹⁰⁴⁾ 和田信賢
 50〜54 余白 「陸軍予科士官学校生徒の願書受付が始つた」
 (54) 広島陸軍幼年学校校歌⁽¹⁰⁵⁾
 歴史小説 神風 角田喜久雄
 56〜62 字号通信⁽¹⁰⁶⁾
 62〜63 漫画 フクちゃんの新兵器 横山隆一
 64〜65 雛鷺故郷にかへる⁽¹⁰⁷⁾ (「文化奉公会」) 牧野英二
 66〜70 軍事科学 木製機と航空決戦
 71〜75

陸軍航空本部 陸軍技術中尉 岡子正章
 76〜78 陸軍名将物語 谷干城 望月茂 (伊藤幾久造画)
 (78) 79 編輯局より
 (79 囲み 若桜十二月号のお知らせ)
 80 軍へ進む早道(陸軍諸学校案内)
 (「下段三分の一に奥付」)
 ⑧ 第一巻第八号(同十二月号) 総七十二頁
 表紙 小松崎茂⁽¹⁰⁸⁾
 1 詔書⁽¹⁰⁹⁾
 2〜4 十二月八日 四度来る(詩) 高村光太郎 (松野一夫画)
 5〜8 写真口絵 少年重砲兵 本社写真部撮影 (文は無署名)
 (9) 目次
 10〜14 憤激新なり⁽¹¹⁰⁾ 陸軍少将 桜井忠温
 15 体当たり既に覚悟少年兵志願者⁽¹¹¹⁾
 燦たり台湾沖航空戦(小特集)
 16〜20 陸軍の雷撃機現る
 (陸軍航空本部) 陸軍中佐 森正光
 21〜25 [現地報告] 敵戦艦「火だるま」となる・二機で敵機
 の大群を屠る⁽¹¹²⁾ 卯月由蔵・太田武四郎
 26〜32 少年飛行兵小説 大空に捧げん 大林清
 (32 囲み 読者だより歓迎)

33 36 神州男子悉く決戦配置へ〔——満十七歳以上の男子に
お召の光栄——〕

36 37 陸軍への道〔陸軍省兵務局長〕 陸軍少将 那須義雄

38 39 フクチャン〔フクチャンと少年兵〕 横山隆一

40 47 戦車なら 火野葦平〔松野一夫画〕

〔47 〕 みごと命中〔漫画〕 中野正治

48 49 武士の子 礼儀 浅野晃〔玉村吉典画〕

50 55 鍛へよ、皇国に捧げる体

〔陸軍〕 軍医大尉 加藤騰蔵

56 57 兵隊ぢいさん 松下井知夫〔薪とりの巻〕

58 62 必死必中 河上哲〔飯塚鈴児画〕

〔63 〕 所沢陸軍航空整備学校校歌〔18 〕

64 70 歴史小説 神風 角田喜久雄

〔70 〕 頁余白 特甲幹合格者の入営延期

70 71 編輯局より

72 新年号予告

〔下段三分の一に奥付〕

⑨ 第二巻第一号〔昭和二十年新年号〕 総七十四頁

表紙 捧げ銃〔19 〕 松野一夫

表紙裏 軍人勅諭を奉誦せよ〔無署名〕

1 大元帥陛下〔12 〕

3 6 正気歌〔12 〕 藤田東湖

7 10 写真画報 富士山麓に鍛へる少年戦車兵〔12 〕

〔11 〕 目次

12 24 ああ万朵隊出撃す——偉勲万世に燦たり陸軍特別攻
撃隊—— 棟田博

25 諸君の入校を待つ陸軍の諸学校〔山口将吉郎画〕

26 27 万朵隊と正気歌 望月茂〔山口将吉郎画〕

28 29 神州の正気〔正気歌の解説〕

30 35 少年飛行兵小説 大空に捧げん 大林清

36 41 日本の伝統と大決戦 小よく大を制す

〔陸軍中將〕 中井良太郎

41 決勝の年を迎へて〔18 〕

42 45 航空通信兵の任務と適性

〔陸軍航空通信学校教官〕 陸軍少佐 中野金之助

46 47 兵隊ぢいさん 松下井知夫〔戦車兵の巻〕

48 53 歴史小説 神風 角田喜久雄

〔53 〕 余白 待て、若桜二月号

54 55 一日早く戦死せん〔18 〕 坂東剛

56 60 軍事科学 爆弾の話 陸軍技術少尉 赤木隆資

61 74 軍神若林中隊長 笹本寅

〔74 〕 下段三分の一に奥付

⑩ 第二巻第二号〔同二月号〕 総七十二頁

表紙 敵戦艦轟沈 小松崎茂

1 4 詩画集 菊池武光〔19 〕 頼山陽

5〜8 写真口絵 一発一中の神技を練る少年野戦砲兵⁽¹³⁾

(9 目次)

10〜15 戦局解説 驕敵米軍破るる日⁽¹¹⁾ 武藤貞一

15 比島決戦場に立つ山下將軍⁽¹²⁾

16〜17 敵の物量を打ち砕くもの⁽¹³⁾

18〜20 大空への道⁽¹⁴⁾ (陸軍省兵備課)

21〜23 第一線の紀元節を思ふ⁽¹⁵⁾ 棟田博

24〜29 大胆B29馬乗り撃墜記 吾妻武夫

30〜35 軍事科学 航空要塞

(陸軍航空本部) 陸軍中佐 森正光 (小松崎茂画)

36〜37 菊池一族の純忠⁽¹⁶⁾

38〜43 少年飛行兵小説⁽¹⁷⁾ 大空に捧げん 大林清

44〜45 自ら糧水を断つ⁽¹⁸⁾ 坂東剛

46〜57 純忠金光部隊長⁽¹⁹⁾ 棟田博

(57余白 待たるる若桜三月号)

58〜59 兵隊ぢいさん 松下井知夫 (「体当りの巻」)

60〜66 歴史小説 神風 角田喜久雄

67〜69 この敢闘を見よ⁽²⁰⁾ 帰還部隊長

69 必勝歌⁽²¹⁾

70〜71 決戦下、紀元節を迎ふ⁽²²⁾

(同下三分の一 読者だより)

72 諸君の入校を待つ陸軍の諸学校⁽²³⁾

(下段三分の一に奥付)

⑪ 第二巻第三号(同三月号) 総七十二頁

表紙 射撃⁽²⁴⁾ 鈴木誠

1 憤激頂点に達す⁽²⁵⁾ (若桜健児一同)

2〜3 君は御空の特攻隊 (比島陸軍航空部隊の歌)

4 比島決戦地図

5〜8 写真口絵 大戦果のかけに⁽²⁶⁾

(9 目次)

10〜15 陸軍記念日に寄す 時は今なり⁽²⁷⁾

(15頁余白 ああ、特攻隊の心意気) 陸軍少将 桜井忠温

16〜17 勝ちぬく若さ 河上哲 (山口将吉郎画)

18〜27 神鷲の揺籃⁽²⁸⁾ 笹本寅

28〜29 大東亜戦 つはものの歌⁽²⁹⁾

30〜34 軍事科学 火砲の話 陸軍技術大尉 加藤義男

34〜35 我を措きて他にあらじ⁽³⁰⁾ 坂東剛

36〜41 少年飛行兵小説 大空に捧げん 大林清

42〜44 名将物語 児玉源太郎⁽³¹⁾ 望月茂

45 気魄すでに敵を呑む新特幹生⁽³²⁾

46〜47 兵隊ぢいさん 松下井知夫 (「アメリカ進攻の巻」)

48〜55 歴史小説 神風 角田喜久雄

(55囲み 真の戦ひはこれからだ 若桜編輯局)

56〜57 第五回全日本少国民発明工夫製作品募集のお知らせ⁽³³⁾

58 名将逸話⁽³⁴⁾

(58余白 莫大な砲弾数)

59〜69 陸軍への道——陸軍幼年学校、少年兵諸学校、特別幹

部候補生の実際と志願案内――

70〜72 大陸戦記 犬まだ多し 宮本旅人

(72 余白 若桜四月号のお知らせ)

(72 下段三分の一に奥付)

⑫ 第二巻第四号(同四月号) 総七十二頁

表紙 擊墜 小松崎茂画

1〜3 詩画集 国体篇 岩崎行親 (山口将吉郎画)

(4 詩の意味 無署名)

5〜8 写真口絵 大空の電波戦士⁽¹³⁾

(9 目次)

10〜11 聖慮にこたへ奉らん⁽¹⁵⁾

12〜21 ああ、硫黄島の戦友 (衆議院議員)濱田尚友

(21 囲み 栗林大将最後の無電 捲土重来の魁たらん⁽¹³⁾)

22〜23 皇国を貫ぬくもの⁽¹⁵⁾

24〜29 白兵斬込戦 陸軍少佐 黒崎貞明

29 軍歌「陸軍」

30〜31 山下將軍比島に儼たり⁽¹⁵⁾ 吉村報道班員

30〜31 敵の艦上機

32〜38 少年飛行兵小説 大空に捧げん (大林清)

(34 囲み 特幹生 少年兵 採用から入校まで)

38 戦闘間兵の心得⁽¹⁶⁾

39 幼年学校生徒召募の新要求⁽¹⁶⁾

40〜44 苦しみてこそ勝つ 陸軍少将 中柴末純

(44 余白 待て、若桜五月号)

45 責任を重んず⁽¹⁶⁾

46〜55 北千島の神鷲⁽¹⁶⁾ 赤川武助

55 (囲み) 特幹生、少年兵召募のお知らせ

56〜59 軍事科学 音波兵器の話 陸軍技術大尉 足立正次

58 知つてゐますか⁽¹⁶⁾

60〜63 史実物語 イギリス船焼打ち 大隈三好

63 陸軍の諸徽章⁽¹⁷⁾

64〜65 特幹生や少年兵にはこの体格⁽¹⁷⁾

66〜72 歴史小説 神風 角田喜久雄

(72 頁余白 感想をつのる)⁽¹⁷⁾

(72 下段三分の一に奥付)

⑬ 第二巻第五号(同五・六月合併号) 総六十四頁

(1 表紙兼、下部に目次)

2〜4 戦ひの最後を決するもの⁽¹⁴⁾

(陸軍省兵務局長) 陸軍少将 那須義雄

(4 頁余白 勳皇志士の和歌)⁽¹⁵⁾

5 決戦訓⁽¹⁶⁾

6〜7 詩画集 蒙古来⁽¹⁷⁾

8〜9 元寇と米寇⁽¹⁷⁾ 笹本寅⁽¹⁹⁾

10〜19 鯉職士道記 戦術爆撃と戦術爆撃⁽¹⁸⁾

(19 囲み 軍事知識 戦はざるものに勝利なし) 佐藤堅司

- 26 〳 27 軍神遺芳⁽¹⁸⁾
 28 〳 33 大空に捧げん⁽¹⁸⁾ 大林清
 34 〳 38 一人十殺⁽¹⁸⁾ 陸軍中佐 黒崎貞明
 (38 囲み 軍事知識⁽¹⁸⁾ 艦船乗員と損害)
 39 陸軍は君を待つ⁽¹⁸⁾
 40 〳 43 電波暗視器⁽¹⁸⁾
 (43 欄外 艦砲の威力)
 44 〳 45 手旗通信法⁽¹⁸⁾
 46 〳 53 忍苦と建設の特攻隊⁽¹⁸⁾ 陸軍大佐 岡崎嘉夫
 (53 三段組の下二段 神鷲の中学時代 川口直樹)
 54 〳 55 手榴弾の取扱ひ方⁽¹⁸⁾
 56 〳 64 神風⁽¹⁸⁾ 角田喜久雄
 (64 下段三分の一 奥付)

注

- (1) 雑誌『海軍』に関しては、先に山本明「二五年戦争末期の雑誌
 (二)——大日本雄弁会講談社刊『海軍』——」(評論・社会科学
 学)二四(同志社大学人文学会 一九八四・五)がその内容の一
 部を紹介し、総目次(但し、頁表記なし)を掲げている。
 (2) 社史編纂委員会『講談社の歩んだ五十年(昭和編)』(講談社 一
 九五・九・十) 五三二頁。引用は一九六七年四月発行の二刷に拠
 る。
 因みに、ここで言及されている発行部数についてだが、同書に拠
 れば(四八八頁)、昭和二十年の新年号で『若桜』が十一万九千九
 百部、『海軍』が十二万九千部で、確かにこれらは『幼年倶楽部』
 昭和十九年新年号の十二万部に進じている。
 (3) 同前、五三〇〳五三二頁。竹中は元講談社員、キング楽器製作所

専務取締役。昭和十五年九月以降、軍部その他各省庁との社内統一
 連絡係を務めたという(四四八頁)。

- (4) 佐藤卓己『言論統制 情報官・鈴木庫三と教育の国防国家』(中
 公新書 二〇〇四・八) 二四五頁。鈴木の記事、昭和十五年六月六
 日附の記述より。後の部分で佐藤が指摘する通り(三〇六〳三〇七
 頁)、鈴木は用紙統制という出版業界にとつての命綱を握る自分の
 所に業者が「こびて来る様」(同年三月二十二日附)に利害第一の
 「商人根性」(同二十五日附)を見透かしてそれに嫌悪感を抱きつ
 つ、しかしそれ(特に多数の読者を持つ雑誌)を自ら乃至軍部の理
 想宣伝のために利用しようという意図を日記に漏らしている。

他方、『講談社の歩んだ五十年(昭和編)』(注2参照)に代表さ
 れる同社の回想では、鈴木への統制指導の苛烈さは強調するものの、
 自社の側からの働きかけについては余り語らない。恐らく時流の中
 で業務を円滑に進め、自社(の利益)を守ることが第一であったと
 いうニュアンスをこめているのだろうが、いざにせよ(真意はと
 もかく)、その結果として表面的には一時期両者の接近が見られる
 ことは確かである。

- (5) 詳細は注(4)佐藤前掲書巻末の「鈴木庫三年譜」参照。ここでは
 「国防国家と青年の進路」(大日本雄弁会講談社 一九四一・四)、
 木村毅「事変四周年記念日を迎へて——鈴木陸軍中佐にお話をき
 く」(国防国家と皆さんの心がまへ——鈴木陸軍中佐にお話をきく)
 『少年倶楽部』昭和十六年七・八月号)の二本(三三)を代表と
 して挙げておく。
 (6) 前任者(昭和十六年四月号まで)須藤憲三。後任者(昭和十九年
 九月号から編輯人)高橋清次(発行人は高木義賢)。
 (7) 目次では二つに分けられているが、実質一続きの記事。同号全百
 十四頁のうち、一九〳一九頁がそれに当たる。
 (8) 『少年倶楽部』昭和十九年五月号 六六〳六七頁所載の『若桜』
 『海軍』創刊号広告ほか参照。
 (9) 以下の各項目は、各号奥付表記に拠る。
 (10) 木村健一は、『講談社の歩んだ五十年(昭和編)』(注2前掲)に、

昭和十四年入社社員としてその名が見える(四四四頁)。

(11) 桜の花を背に、銃剣を手に直立する少年兵の半身像。

(12) 「陸軍予科士官学校生徒御閲兵の節謹写し奉る」とあり、馬上で(恐らく)答礼する(昭和)天皇の肖像写真。下段に「君が代」の文句がある。以下、このようにグラビア写真と短文もしくは詩画集が巻頭にくるのが同誌のパターンとなる。

因みにこの写真「少年倶楽部」昭和十九年二月号掲載の記事「大元帥陛下 陸軍予科士官学校に行幸——ほまれかがやく振武台の若桜——」(文・松永健哉)に附された写真「大元帥陛下 陸軍予科士官学校生徒を御閲兵あそばさる」(読売新聞社撮影)と同じもの(その一部を抜き出したもの)であることから、恐らく社内で流用したものと推測される。

(13) 陸軍幼年学校の訓練の様子を写真と文で伝えるもの。無署名。

(14) 散文詩のような説明文(無署名)つき。

(15) 上段三分の二に陸軍大将・乃木希典の手になる勅諭の影印、下段に「諸君の体の中に、軍人精神をしつかりとしみこませてください」という「青少年諸君」への呼びかけがある。乃木の顔写真つきだが、言表主体は乃木ではなく同誌記者として読める(無署名)。八十の詩に、齋藤五百枝(第一回野間挿画奨励賞受賞者、同社とは関係が深い)が絵を付けたもの。本文では角書なし、八十と齋藤の署名がある。

(17) 北宏二画。

(18) 小説。尚、目次ではこれと陸軍諸学校案内(三三三頁)のみが赤字で強調されるという特別扱いを受けている。

(19) 二段組の下段。次号より開始される両コーナーへの投稿を呼びかけるもの。

(20) 自ら「三十六人の敵をたふした」という「旅順攻撃生残りの勇士」とその孫の話。読みきり連載。

(21) 「最近ドイツからお帰りになつた外務省の牛場信彦事務官」と少年「正雄君」の問答体。本文標題は「僕たちの戦友ドイツの〜」。

(22) 同頁囲み。小ネタ二つ(西村仁志「にくい頭」・多田東洋男「象

の活躍」)。

(23) 小説風ルポルタージュ。枕島勝一画。尚、本文末尾(をはり)の後に、改行して次のようにある。

この「若桜」は、読んだあとで、兵隊さんに送ってください。この新雑誌が戦地でどんなに喜ばれることせう。知つた人のない時には、近所で出征してゐる方の宛名を、在郷軍人会で書いて、送つてあげてください。

(24) パズル。尚、この頁下段三分の一は「若桜考査室」と題して、読者に雑誌の精読・再読を促すための問題集になつてゐる。これは「少年倶楽部」での、「久平メンタルテスト」(これに関しては、五島「対米開戦前夜の「少年倶楽部」と読者たち」(近代文学合同研究会論集第三号「講談社」ネットワークと読者」同会 二〇〇六・十二)を参照)と同様のものであり、恐らくそのノウハウを引き継いだのだろう。

(25) 本文標題には、「海軍記念日にしるぶ」の副書がある。

(26) 秋玲二・川村みなの・篠崎壽。

(27) 本文では、「陸軍特別幹部候補生の採用試験を見る」の副題がある。標題は「陸の少年飛行兵に兄さんができた」。

(28) 囲み記事。本文では「戦線だより」と銘打ち「皇軍インドに進撃す」とある。無署名。

(29) 歴史小説。山口将吉郎画。

(30) 囲み。署名は「若桜」編輯局。

(31) 富士山をバックに敬礼する少年戦車兵。作者の鬼頭はこの年の「陸軍美術展で陸軍大臣賞を得られた方」(同号「編輯局だより」より)。

(32) 山口将吉郎画。作者の元田は「明治天皇の侍講を仰付られ、また宮中顧問官、枢密顧問官となられた功臣」(同号「編輯局だより」より)。

(33) 本文冒頭には、「東京陸軍少年飛行兵学校見学記」とある。無署

名。

- (34) 本文表記には「陸軍士官学校卒業式を陪観して」の副題がある。尚、本文署名に拠れば、著者の高田は当時「毎日新聞」編輯総長。
- (35) 囲み。無署名。
- (36) 「古河聯合艦隊司令長官の英霊につづけ」という編輯局名による記事。
- (37) 陸軍少年戦車兵学校生徒から肉親に宛てた手紙(形式のテキスト)が二本。末尾には、同号四十八頁の「陸軍少年兵志願の手引」を参照せよとある。
- (38) 見開き二頁・三段組の下一段(上二段は、前項「少年戦車兵から」)。四三頁に囲み記事「軍事訓練日より」「ほくらの学校では、こんなことをしてゐる」を募集します。八百字以内を書いて左記の所にお送り下さい。(中略) 講談社「若校」編輯局軍事訓練係」というのがあり、これが読者投稿であることが分かる。本文標題は、「ほくらの国民学校ではこんな訓練をしてゐる」。因みに、これは同時期「少年倶楽部」誌上で行っていた「学校だより」と全くの同工異曲と見做すことが出来る(注24前掲論文参照)。
- (39) 本文標題には、「ビルマ陸軍士官学校の卒業式に参列して」の副書がある。
- (40) 前項と連続するもの(前注参照)であるためか、目次にはこの項の記載はない。
- (41) 「雲や闇を通して敵機をとらへる新しい電波」に関して。挿絵・山川惣治。
- (42) 本文には「決戦下諸君の進むべき道」の前書きがある。内容は少年兵諸学校への進学案内の概略。
- (43) 本文標題には、「仙台陸軍幼年学校見学記」の副題がある。五三頁には囲み記事「陸軍幼年学校 志願の締切せまる」が載っている。
- (44) 読者からの問に対する答え。
- (45) 深川剛一画。本文標題の角書は「愛国熱血の大冒険小説」であり、「全日本の青少年は一人残らず読め」の副書。

(46) 右頁途中より左頁にかけての見開き、三段組の上二段(下段は「読者だより」。始めに以下のような前書きがある。

今では、幼年学校以外の少年兵諸学校の入学試験科目は、国語と算数になつてゐますが、前には、次のやうな問題も出ました。工夫する力や、考へる力をやしなふことは、これからいよいよ大切です。よく考へてごらん下さい。

ここでは、七問が出されている。

- (47) 前注参照。
- (48) 末尾に「若校写真部撮影」とある。文には署名なし。
- (49) 「六月初の一夜、東京の成城中学校に学ぶ、陸軍幼年学校志望の二年生の諸君が、荒木貞夫閣下をおたづねして、お話をうけたまはつた」(本文前書より)時の記録。成城中学校は幼年・予科士官・陸軍經理・海軍兵の各学校に「多数の合格者を出した、日本一の軍人中学校である」(同)という。
- (50) 「岐阜陸軍航空整備学校校歌」を譜面つきで紹介。松野一夫画。
- (51) 手紙を送ろう、の呼びかけ。
- (52) 実話小説といった感じのもの。小松崎茂画。
- (53) 二本。
- (54) 読者からの質問に、陸軍省兵備課が答える問答形式。見開き三段組の上二段。
- (55) 見開き三段組の下段。
- (56) 歴史小説。山口将吉郎画。
- (57) 本文署名は「若校編輯局」。見開き三段組の上二段。
- (58) 物理・算数的な問題五題。見開き三段組の下段。
- (59) 本文標題は「飛行兵になる道はこれだけある」。
- (60) 陸軍諸学校案内。
- (61) 絵にも小字で「陸軍特幹船舶兵」の説明書きが付いている。
- (62) 山口将吉郎画。本文無署名。
- (63) グラフ記事。「写真は若校写真部撮影及び大東亜写真協会提供の

もの」とあり。

- (64) 前号の続き。松野一夫挿絵。
- (65) 本文には「海行く陸軍の若武者」の副題あり。四三頁には囲み記事「全日本の青少年諸君に告ぐ」(陸軍特別幹部候補生の募集要項)が「若桜編輯局」名義で載っている。
- (66) 本文には「敵米英をふるひあがらせたドイツの流星爆弾」の前置きあり。小松は「大日本航空技師」(本文署名)。北宏二画。
- (67) 本文標題には、「參謀総長」の角書あり。
- (68) 「右頁中途より」見開き三段組の上二段。陸軍野戦砲兵学校の生徒二名からそれぞれ恩師・弟への手紙。
- (69) 同前。下二段。遊びの紹介・パズル。
- (70) 「軍事専門家の叔父さん」と「太郎」の問答形式(「少年倶楽部」の同様の記事を思わせる。注24前掲論文参照)。伊藤幾久造画。
- (71) 昭和十九年度試験問題の転載。
- (72) 囲み記事。三段組の上二段分。
- (73) 表紙右下に銘打たれている。
- (74) 目次には「一」頁からとあるが、それだと数が合わない。尚、現物の一頁は目次である。
- (75) トップの顔ぶれの紹介。うち冒頭(五頁)は「小磯大將 決戦内閣の総理大臣となる」。
- (76) 本文には局長・岩本新作の署名。サイパン島玉砕における現地指揮官の最後の言(「皇国の必勝を確信し、莞爾として悠久の大義に生きんとする將兵の声を伝ふ」)を紹介し、「全日本の青少年諸君」に奮起を促すという内容。
- (77) 本文標題には「——陸軍少年飛行兵に捧ぐ——」の副題。梅木三郎作詞、譜面つき(上原げんと作曲、篠原正雄編曲)。
- (78) ルポルタージュながら、一部小説風である。北宏二画。
- (79) 小松崎茂画。四二頁、四四頁の三段組下段は、「アメリカの主な爆撃機」小図鑑となっている。
- (80) 本文標題では「米英撃滅の陣頭に立つ新総理大臣 小磯国昭大將」。松野一夫画。五四頁欄外に「満洲国と小磯首相」(無署名)が

載る。

- (81) 小泉紫郎「新兵器漫画 鉄道建設用戦車」。欄外に、「こんな兵器ができたら」と思ふ珍案奇案の新兵器漫画を書いて送つて下さい。——宛名は若桜編輯局 漫画係」という読者への呼びかけがある(太字強調は原文)。
- (82) 本文標題には「君らの道は開けた」との前置きがある。
- (83) 「少年整備兵から故郷の父へ」「故郷の姉から弟へ」の二本。
- (84) 頁見開きの三段組の下段。パズル・遊びの紹介。
- (85) 前より連載企画、この号で完結。伊藤幾久蔵画。
- (86) 低い姿勢から銃を構える少年兵の図。
- (87) 従軍將兵の歌集。
- (88) 写真(「若桜写真部撮影」と説明文(無署名))。
- (89) 囲み記事。大日本雄弁会講談社と帝國發明協会が主催(共催)した「少年國民發明工夫展覽會」(その詳細は、五島「対米開戦前夜の「少年倶楽部」と読者たち」(注24前掲)を参照されたい)入選作よりの紹介。
- (90) 創刊(今号までに同誌に載った科学記事のタイトルを並べ、それらの再読・復読を要請する記事。無署名)。
- (91) 生徒五名による三本の手記(最後ののは三人連名。最終(三五)頁下段三分の一には「特幹生志願者へ」と題しその受験者心得が載っている)。
- (92) 目次では「四七」だが、実際には四六頁から四七頁にかけての囲み。本文標題は「(新兵器漫画) 移動基地」。
- (93) 小説風ルポルタージュ。
- (94) 本文標題には「全日本の青少年諸君」と前置きあり。
- (95) 目次には「六七」とあるが、本文は六六頁中途より。
- (96) 本文標題は「(陸軍諸学校の生徒になるには) これだけの体が必要」。
- (97) 本文標題には「——明治天皇御製謹解——」の副題。山口將吉郎画。
- (98) 口絵と短文。伊藤幾久造・小松崎茂・北宏二画。本文無署名。

- (99) 本文標題には「——ビルマ・インド戦線より帰って——」とある。岩田専太郎画。
- (100) 第二次陸軍特別幹部候補生採用検査報告。
- (101) 本文署名には「大日本飛行協会 長沢義男」。小野寺秋風画。「陸軍の少年飛行兵学校でやつてみる競技」の紹介。
- (102) 小説風ルポルタージュ。小松崎茂画。
- (103) 同頁囲み。手紙二本の転載。
- (104) 見開き三段組の下端。パズル及び遊びの紹介。
- (105) 本文署名には「日本放送協会」の肩書。北千島基地防衛軍の紹介。
- (106) 陸軍戸山学校作曲。作詞者表記なし。
- (107) 本文標題には「諸君はおぼえましたか」と前書き。
- (108) ルポルタージュ。河目倂二画。
- (109) 改題(〇表紙)参照。
- (110) 昭和十六年十二月八日附、太平洋戦争開戦に当たって出された詔書の転載。
- (111) 本文標題には「——十二月八日を迎へて——」の副題。一三頁には、「戦争の張本人はこの男だ」として、ルーズベルトとチャーチルを描いた囲み記事がある。
- (112) 本文標題は「体当り既に覚悟烈々たり陸軍少年兵志願者。この年十月三十日に行われたという「東京聯隊区管下の昭和二十年度陸軍少年兵採用検査」の様子。その一こまとして、志願者が検査官の前に、平然と命を捨てる覚悟を語るところが前項(桜井「憤激新なり」)の最終節「若き人々よ」で紹介されるエピソードと共通している。
- (113) 本文標題は「必殺の肉薄攻撃に敵戦艦「火だるま」となる」。作者の卯月・太田は「東京新聞特派員」。椛島勝一画。
- (114) 投稿の呼びかけ。
- (115) 軍学校案内。
- (116) 本文署名のルビには「よしへい」とある。
- (117) 「偉勲燦たり、わが戦闘機(改行)体当りによつて敵大型航空母

- 艦を撃沈す」と副書。
- (118) 作詞・作曲者名なし。
- (119) 「捧げ銃」をする少年兵の絵。
- (120) 創刊号掲載のものと同じ。この号ではそれに関して一切説明なし。
- (121) 詩画集。山口将吉郎画。
- (122) 写真と簡単な説明文。無署名。
- (123) ルポルタージュ。椛島勝一画。
- (124) 入校案内。
- (125) 本文標題には「諸君の魂に沁みこませよ」と前書き。署名なし。
- (126) 囲み記事。本文署名は「若桜編輯局」。
- (127) 歴史逸話。
- (128) 本文標題には、「——この一篇を後に続く青少年に捧ぐ——」と副書。梁川剛一画。
- (129) 本文冒頭に、恐らく編輯による前書きあり(無署名)。末尾には「解説が本文にあり」の注記(三十六頁からの「菊池一族の純忠」を指す)。山口将吉郎画。
- (130) 本文には、「陸軍野戦砲兵学校生徒隊見学記——本社写真部撮影」とある。説明文は無署名。
- (131) 本文標題には「比島決戦の真相を知れ」の前書き。
- (132) 囲み記事。本文標題は、「比島決戦場に立つ山下奉文將軍」。写真と文(署名なし)で構成。
- (133) 「陸軍特別攻撃隊戦果表」(自昭和十九年十一月七日 至昭和二十年一月五日)の紹介が主。無署名。
- (134) 問答形式で、陸軍飛行兵になる進路を説いたもの。
- (135) 随想。松野一夫画。
- (136) 巻頭記事の解説。無署名。
- (137) 柴田勝家に関する一挿話。伊藤幾久造画。
- (138) ルポルタージュ。伊藤幾久造画。
- (139) 本文標題は「銃後生活の極意はここに この敢闘を見よ——帰還部隊長は語る——」。「記者」前書きに「最近ニューギネヤ戦線から

- 帰還された某部隊長の話」とある。
- (140) 六十九頁の下三分の二。歌詞のみで曲はなし(情報局が選定したものと解説にあり)。
- (141) 見開き三段組の上二段。「神鷲につづかんとする青少年諸君」に戦場(士官学校)への志願を呼びかけるもの。末尾に「若校編輯局」の署名。
- (142) 入学案内。
- (143) 機関銃を構える少年兵の図。
- (144) 本文標題は「憤激極点に達す」。
- (145) 本文には「——所沢陸軍航空整備学校見学——」と副題あり。若校写真部撮影、小松崎茂画、文は無署名。
- (146) 上部に口絵。
- (147) 本文標題には「——昔も今も特攻隊——」と副書き。
- (148) 本文には「——熊谷陸軍飛行学校を訪ねて——」と副題。飯塚裕見画。
- (149) 兵卒短歌集。松野一夫画。
- (150) 歴史逸話。伊藤幾久造画。
- (151) 本文標題では「陸軍名将物語。伊藤幾久造画」。
- (152) 昭和二十年採用者決定と「第一回 特幹社行会」の報告。無署名。
- (153) 本文標題は「創意工夫は勝利の力」。発明品二、三の実例を挙げ、その下段三分の一に「第五回全日本少国民発明工夫製作品募集要項」が載る。尚、同企画に関しては、注89を参照。
- (154) 「野津大将の温情」「この一戦に死せよ」(それぞれ、西南戦争・日露戦争に纏わる逸話)。
- (155) 戦争に関する小記事。
- (156) 本文には「——水戸陸軍航空通信学校見学——」と前書き。説明文無署名。
- (157) 本文標題は「戦災地に忝き行幸を拜して」と副題。署名「若校編輯局」。
- (158) 前項とリンクするもの。
- (159) 「筑紫防人の歌」「硫黄島勇士の歌」の二部立。所謂無名兵士の歌。
- (160) 本文には「皇軍独自の戦法」と前書。梁川剛一画。
- (161) 同ページ囲み。詞と曲の紹介。
- (162) 見開き三段組の上二段。本文には、「ルソン基地にて 吉村報道班員」とあり。
- (163) 頁下段三分の一。ミニ図鑑。
- (164) 案内。
- (165) 同頁余白。本文標題は「戦闘間における兵の心得」。「步兵操典」よりの抜粋。
- (166) 本文標題は「陸軍への道。昭和二十一年度陸軍幼年学校生徒召募要項」。
- (167) 訓話。四十四頁には囲みで、「特攻隊勇士の遺芳 お母さんがまわして下さい」(七生皇植第二飛行隊 陸軍軍曹 村中公一)の遺書が載る。
- (168) 逸話二題(「血染の電鍵」「少年の切腹」。無署名)。
- (169) 本文標題では「特攻隊当りの先駆」と前書き。山川惣治画。
- (170) 頁余白。同じく大日本雄弁会講談社発行の雑誌「少年倶楽部」の定番コーナー「ダイヤモンド」に相当するマメ知識。
- (171) 同頁囲み。ミニ図鑑。
- (172) 本文標題は「特幹生や少年兵になるには これだけの体が必要だ」。
- (173) 若校編輯局から読者へ。「少年兵や特幹生に志願しようとする諸君の時局についての感想、烈々たる決意などはがきに書いて送ってくれ給へ」。
- (174) 本文標題には「——「若校」創刊一周年に当りて——」と副書き。
- (175) 吉田松陰・佐久良東雄・伴林光平、各一首。
- (176) 全五カ条、以下にその前書き(無署名)を引用する。
仇敵撃滅の神機をはらむ皇土決戦を前にして、阿南陸軍大臣は「決戦訓」を制定し全軍に布告した。これは皇軍のみならず、

全国民が体すべきである。ことに皇軍の後につづかんとする諸君は日夜これを誦し、宸襟を安んじ奉らなければならぬ。

(177) 頼山陽「蒙古来」に山口将吉郎が画を添えたもの。

(178) 本文標題には「『蒙古来』の意味」と副題。無署名。

(179) 本文標題には「会津だましひ」と角書。読切歴史小説。斎藤五百枝画。

(180) 三段組の下端。無署名。

(181) 本文標題は「戦はざる者に」。苦難を踏み越えた人々」と副題。

(182) 本文には「——陸軍特別攻撃隊勇士による——」と副題。榎戸浩画。

(183) 本文末尾に「(七月号につづく)」とある。

(184) 本文標題には「『この気魄を各自の胸に刻みつけよ』」と副書。

(185) 三段組の下端。無署名。

(186) 諸学校案内。

(187) 本文標題は「軍事科学 電波暗視器。署名は「通信院技師 谷村功」。

(188) 図説紹介。

(189) 本文には「『鉄道兵特幹生の生活』」と副題。山川惣治画。

(190) 本文には「——老幼男女来るべき日に備へよ——」と副書き。

(191) 今号にて連載完結。

※ 字体は通行のものに改めた。